

南の風 319

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

318号の続きです。振り返りながら進めます。

リングに向かって左のウイングにボールがある状態です。ベースラインを抜かせないことが前提ですから、ノーラインのポジションです。ボールマンはミドルドライブになります。2ガードの一人（リングに向かって左のポジション）に付いていたディフェンスがヘルプに行きます。バックラインディフェンスの特徴として、ディフェンスの後の二人（ショートコーナーのポストのディフェンスは除く）は、ボールの方にフロート気味に守ります。但し、自分が守るべき相手を意識する身体の向きやハンドサイン、相手の動きに対応したポジション取りをしないとゾーンディフェンスと見なされるので注意が必要です。

1線（ボールマンディフェンス）は、相手のドライブをミドル側にディレクションします。ボールサイドの2線がヘルプの体勢を取り、必要に応じてトラップをかけます。ヘルプやトラップが行われた場合、逆サイドのガード、ウイングに付いていたディフェンスが当然ローテーションをして守りますが、ショートコーナーにいる3線のディフェンスは自分の相手をそのまま守り、簡単にリバウンドに行かせないようにします。また、トラップをかけない時は、ボールマンディフェンスはラン&ジャンプでノーマークになりそうな相手をマッチアップします。

バックラインディフェンスの形態はこのようなものになります。なれないと混乱をすることがありますが、ローテーションが遅れてノーマークをつくってしまうことやゴール下のミスマッチを防ぐためには適した守り方です。

このディフェンスを取り入れるかどうかは、コーチがチームの実態を見て判断することになりますが、マッチアップを変えたくない場合（特にオフボールサイドゴール下）は取り入れるメリットがあります。ただミドルをドライブで割られてしまうと、パスコースは四方八方に広がるリスクが出てくるので要注意です。

最後になります。ポストディフェンスについてです。私が観戦したゲームで、ゴール近辺でポストマンに簡単にボールが入ってしまう場面が多々ありました。サイズがある選手にローポストやミドルポストでボールを持たれてしまうと、失点につながる確率が増大します。また、持たれてから慌ててチェックに出て、ファウルトラブルということも起こります。

大切なことは、ポストマンにペイントの中でポジションを取らさないことです。

- ① ポストマンの動きはじめを察知してコースを潰す。
- ② ヴァンプ（コンタクトして身体を張る）してポストマンを押さえる。（ハンドチェックのファウルは注意する。）
- ③ フルフロント、フルバック、ハイサイド、ローサイドのいずれで守るかは、チームで確認しておく。（一人で守り切れない場合も考慮し、ダブルチームすることも視野に入れる）

それぞれのチームで取り組んでみてください。